

社会にむけた「科学の伝え方」の可能性を探る

1. 目的

昨今、科学技術コミュニケーションの分野では、「開かれた」という言葉がキーワードとなり、双方向コミュニケーションに着目をした一般の人々との交流の場が数多く持たれている。ただ、科学技術の専門家或いは科学技術の知識をよく知っている人々が企画をすることが多い。一方、アート系イベント・博物館などでは一般の人々を対象として「伝える」場をこれまでに数多く手がけてきている。様々な背景や経験を持った方々と意見交換を行う場を通じて、社会にむけた「科学の伝え方」の可能性や課題を探り、これまでとは異なる場の設計の方法を探る議論を行う。

2. 主催：三つ部（つくる、つながる、つかう）

3. 共催：京都大学 物質－細胞統合システム拠点科学コミュニケーショングループ 科学コミュニケーション研究会 関西支部勉強会

4. 開催日時：9月12日（月）15時-17時半

5. 開催場所：京都大学総合博物館 （京都市左京区吉田本町 京都大学総合博物館）

6. スケジュール

- ◆ 15時00分：趣旨説明（吉澤剛・福島杏子）
- ◆ 15時15分：話題提供（20分×3人）
 - 水町衣里（京都大学 iCeMS 研究員）
 - アルバロ・カシネリ（東京大学情報理工学系研究科 助教）
 - 大西景子（SODA design research）
- ◆ 16時15分：全体討論

以上